高等学校教育の現在と足寄高校の現在・これから

北海道足寄高等学校長 渋谷 圭

昨年4月に赴任し、歴史ある足寄高の舵取りを任されております。足寄高は地域に開かれた学校であり、教育活動に地域の方々の惜しみないご支援をいただいています。来校される同窓生の方々には、ご自身が高校生として通っていた時と現在の生徒の様子を比較して、その変貌ぶりに感銘を受けられる方も多くお見受けします。この度はこの機会に、真っ只中にある高校教育改革と足寄高校の現在について述べさせていただきます。

令和の教育改革

社会の急激な変化に対応した新しい教育の在り方として名付けられた「令和の日本型学校教育」は、これまで我が国が育んできた学校教育の良さを受け継ぎつつ、これからの時代に対応した教育を目指すためのいくつもの更新項目が含まれています。私は飲料水をペットボトルで買う、電話にカメラがついている、といったことすら未だに抵抗がありますが、いまや電子マネーで買い物をし、人工知能を搭載した掃除ロボットが部屋を掃除、自動車はハンドルに手を添えるだけでほぼ自動運転、スピーカーに話しかければ音楽を流してくれる、といったことは珍しいことではありません。日常生活にも垣間見られるこれらの急速な技術の進歩は止まることはありません。職業生活においても同様で、生徒たちは学校を卒業してからも自らの知識や技能を頻繁に更新し続ける必要があり、学校と教師にもその変化への対応が求められています。インターネットに接続した端末を使って、授業中に検索することは既に小学校でも日常的になっています。外国の高校生と生討論といったことも簡単にできるようになり、12月には外務省のプログラムで、タイの高校生と本校の生徒会執行部役員とボランティア部員が、互いの学校生活の紹介や流行など話題でオンライン交流を行いました。

変わる高校教師の姿

教師が教科書片手に解説、たまに指名されて答えなければ恥をかく、といった授業風景を思い出されることと思います。教師だけが情報を持っており、それを一方的に生徒に与え続ける方法だけでは、インターネットにいくらでも情報がある現代に取り残されてしまいます。教師は生徒が学びにおいて情報を活用できるよう、コーディネーターとしての役割が求められています。

学習評価も変わる

基準にどれだけ近づいたかによって順位付けの評価が行われてきましたが、授業では生徒が自分に最適な学びを見つけて探求をしていけるように導くことが求められており、学びの成果よりも学びの過程を重要視する評価になりました。英語と社会、数学と体育など、教科が結びついた学びや、生徒同士が協働して課題解決に取り組む学び、文系と理系が融合するといった、これまで我が国では当たり前だったことが次々と変容を遂げています。

教職員の働き方改革

これらの驚天動地の変貌によって課題は山積、これまで「子どもたちのため」を合言葉に、教師が使命感をもって勤務時間外もおかまいなしに様々な社会の要請に応えるあまり、心身の健康に支障をきたす事例が全国で増え続けています。教育の質を落とすことなく、業務を大胆に見直し、本当に必要とされる教師の役割とは何かを見極めていく必要があります。本校では、受け入れた生徒の進路実現を支援していくために、教師が進学や就職のための情報を的確に収集して与え、生徒や保護者の方との相談を充実させるために、組織的に体制の更新を試み、研修を行なって指導技術の向上に取り組んでいます。

人権尊重の精神

安心、安全に学ぶことができるよう、個人の価値が尊重されるだけでなく、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働するための環境づくりが必要です。学校生活のマナーやルールにおいても、教師と学校が一方的に決めたことを理解させるだけでなく、生徒が自分の事として考え、教師、生徒同士、保護者や地域の方々と意見を交わして作り上げていく民主的な方法で進めているところです。

全日制普通科の意義をふまえて

高校への進学は本来自分の意志で選ぶものゆえ、「不登校」はありえないというのが基本的な考えでした。義務教育ではないからです。しかし、現在ではほとんどの中学生が高校など上級学校への進学を選択しています。その選択肢の中で注目すべきは、N高校、S高校（匿名で名を伏せているのではなく本当の校名です）といった通信制高校への入学者、転学者が急増していることです。通信制ですが生徒がほぼ毎日登校する学校もあります。全日制普通科の地元の高校へ通う意義を感じることでできる学びの形とはどんなものなのかを、相対化して実体化していくことに取り組んでいます。

部活動改革

これまで高校の部活動は、指導経験がない教師も含めて、高校の教師が休日返上で業務にあたっています。現在、持続可能な部活動と学校の働き方改革の両方を実現するために、活動時間をはじめとするガイドラインが定められ、休日の部活動を地域の活動として実施できる段階的な環境整備が全国規模で取り組まれています。本校においては、既に弓道部と野球部、茶道部で休日にとどまらない支援をいただいております。弓道は足寄町弓道連盟の多治見様のご指導をいただいております。全道の強豪として、昨年度は女子団体が全道大会で優勝、熊本開催の全国大会に出場いたしました。野球部は足寄町教育委員会の池田様のご指導のもと、夏の大会は前年度の優勝校を相手に健闘を見せました。茶道部は松崎様の専門的技術指導により、許状取得が可能です。

ご支援を力に

町村人口の減少と都市集中により、道立高は「小規模校」が増えています。毎年道教委から高校配置計画が発表され、これまで1学級40名、1学年4学級以上が好ましいとされていましたが、今年度はその見直しがありました。本校も町で唯一の高校で、かつては1学年

5学級、家政科や定時制もありましたが、入学者数の減少で1学年1学級となったのはつい数年前のことです。そこから全道の先陣を切って足寄町の様々な手厚いご支援により回復、同じ程度の人口の高校で二間口維持は希少です。いただいている支援と、学校の指導の連携・接続を効果的に行うために、例えば足寄高生だけのための公設民営塾との毎月の実務者会議といった取組を行なっています。今後は教育委員会、企業の方々との連携により、新たな学びの充実した成果をもたらすことができる組織体制をつくることに取り組んでいます。

会員の皆様には、本校の様子を普段からぜひご覧いただきたいと思っています。本校3階には、同窓生の皆様よりご提供いただいた資料などにより、5年前に設置した「資料室」があり、旧校舎や旧制服、かつての足寄高校の様々な資料を展示しています。

高校存続のために持続可能で有効と思われる方法を編み出しながら、これからも職員一同、鋭意努力をしてまいります。ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。